

地域再生計画（案）

1 地域再生計画の名称

もっとはらこめし ずっとはらこめし 推進事業計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県亶理郡亶理町

3 地域再生計画の区域

宮城県亶理郡亶理町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

○地産地消・郷土愛の醸成

「はらこめし」は亶理町発祥の郷土料理であり、町内の一部の小学校では、サケの稚魚放流や「はらこめし」の調理実習なども実施されている。しかし、最近は、町内の比較的若い世代の住民が「はらこめし」を食す頻度や量が少なくなっている。

そこで、町民が「はらこめし」の魅力を再認識・再発見できる施策を実施し、「はらこめし発祥の地」として姑から嫁、親から子へ世代を超えた「はらこめし」という食文化の伝承による郷土愛の醸成を図るとともに、稚魚放流から始まり、荒浜漁港での水揚げ、各家庭及び店舗において消費するという地産地消の拡大による地域経済の活性化を図る必要がある。

○知名度向上

本町における観光コンテンツに関する調査を実施したところ、「はらこめし」を食したことがあるとの回答者が58.8%を占め、満足度も高い結果であった。しかしながら、本町を訪れたことがある回数は、5回～2回と回答する者が多く、地域内の消費、リピーターの増加にまでは至っていないのが現状であり、「宮城県亶理町＝はらこめし」としての知名度を向上をさせ、リピーターの増加を図る必要がある。

○ブランド力向上

「はらこめし」のシーズンには、各店舗において「はらこめし」を求めた観光客が列をなしている。しかしながら、店舗のブランド力の差により、提供個数等に偏りがあるのが現状である。店舗のブランド力の底上げなくして「はらこめし」による地域の活性化が図られないことから、「(仮称) はらこめし振興会」を設立し、関係団体と協力のうえ、イベントの開催や出店によるPRを通じて店舗の

ブランド力向上を図る必要がある。

4-2 地方創生として目指す将来像

「はらこめし」は本町発祥の郷土料理であり、初代仙台藩主 伊達政宗公にサケの身といくらをご飯と炊き献上したところ、大変喜ばれ、側近に吹聴したことや秋祭りにおいて、五穀豊穰と豊漁を感謝するために収穫されたばかりの新米と遡上したサケを合わせて調理し、神せんとして捧げ食べられたものが始まりと言われ、長きにわたり伝えられている食文化である。

郷土料理「はらこめし」という食文化を通じて、サケの稚魚放流から始まる地産地消、世代を超え受け継ぐことによる郷土愛の醸成を図るとともに、全国にPRすることにより、郷土料理「はらこめし」のブランドイメージを定着させ、町内で「はらこめし」を提供している店舗への誘客を図り、ブランド力向上、地域経済の活性化を実現する。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
水産まつり 及びはらこ めし提供店 の来客者数(人)	18,000	500	500	500	1,500
水産まつり のはらこめ し販売個数	1,300	150	150	150	450
主要店舗(5 店舗)による 提供食数	56,000	500	500	500	1,500

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

「(仮称)はらこめし振興会」を設立し、関係団体と協力のうえ、イベントの開催や出店によるPRを通じて地産地消、消費拡大及び店舗のブランド力向上を図る。

また、それらの効果を通じて町民に郷土料理「はらこめし」の魅力を再認識・再発見・郷土の食文化の伝承による郷土愛の醸成を促すとともに、「宮城県亶理町＝はらこめし」として本町の知名度向上と町を訪れるリピーターの増加及び新規の誘客を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

宮城県亶理郡亶理町

② 事業の名称：

もっとはらこめし ずっとはらこめし 推進事業

③ 事業の内容

- (1) 亶理町発祥「はらこめし」及び毎年10月開催の「荒浜漁港水産まつり」のPR活動を行い、「宮城県亶理町＝はらこめし」として知名度向上と誘客を図る。
- (2) 町の観光協会で実施してきた「はらこめしスタンプラリー」の強化に加え、新たに「はらこめしクーポン」等を実施することで新規誘客及びリピーターを獲得し、毎年客足が伸び悩むシーズン中旬（10月中旬）以降も安定した「はらこめし」提供、事業者所得及び地産地消の拡大を図る。
- (3) 調理教室等の開催により、郷土料理「はらこめし」の伝承、地産地消の推進及び郷土愛の醸成を図る。
- (4) 設立した「（仮称）はらこめし振興会」主催による「利きはらこめし」等のイベントを実施する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

各店舗のブランド力向上により誘客が増加し、「（仮称）はらこめし振興会」での独自イベント開催等が期待できる。

また、調理教室等の開催により、世代を超えた食文化の伝承、家庭での消費及び地産地消の拡大へとつながり、町民が「はらこめし」の魅力を再認識・再発見することが期待できる。

【官民協働】

「はらこめし」に関するイベント開催については、「（仮称）はらこめし振興会」、漁協、観光協会、行政が連携し、それぞれの役割分担のもと、「は

「はらこめし発祥の地」のブランドイメージ定着に向けて事業を展開する。

【政策間連携】

本町では毎年、一部の小学校においてサケ稚魚の放流、「はらこめし」の調理実習を実施し、サケの生態や人工ふ化、郷土の食文化への理解を深める取組みを実施しているが、実施する小学校や事業を拡充させ、さらに地域の食文化の浸透、郷土愛の醸成を図る。また、小学生だけでなく、広く住民に対して「はらこめし」を中心とした料理教室を開催し、「はらこめし発祥の地」として食文化を伝承させ、家庭での消費拡大を図り、地産地消を促す。そして、「（仮称）はらこめし振興会」を中心に「はらこめし発祥の地」のブランド力向上を図ることで各店舗への誘客及び交流人口の拡大による売上の増加及びサケの消費拡大並びに各店舗への安定価格による供給、漁業者の所得の安定を図る。

【地域間連携】

本町を含む宮城県南地域の4市9町をエリアとした「宮城インバウンドDMO推進協議会」が平成29年2月に設立された。協議会は、3月に設立した民間で構成する「一般社団法人宮城インバウンドDMO」と連携し、インバウンドに対応した新たなコンテンツ整備、他地域のタイプの違う観光コンテンツとの結びつけを行う。これらと連携し、交流人口拡大の取組みを広域的に進めていく。

【その他の先導性】

特になし。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
水産まつり及びはらこめし提供店の来客者数(人)	18,000	500	500	500	1,500
水産まつりのはらこめし販売個数	1,300	150	150	150	450
主要店舗(5店舗)による	56,000	500	500	500	1,500

提供食数					
------	--	--	--	--	--

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

「亙理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」において、設定した数値目標等から、実施した施策・事業の効果を検証し、新たな展開を模索し、より効果的な事業となるよう見直しを行う。

【外部組織の参画者】

宮城大学食産業学部環境システム学科教授、株式会社カドサワ代表取締役社長、モリプレゼンス株式会社専務取締役、みやぎ亙理農業協同組合総務課長、亙理町教育委員会教育委員、七十七銀行亙理支店支店長、あぶくま信用金庫亙理支店支店長の外部有識者で構成する亙理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会や亙理町議会の関与を得ながら、事業実施団体等からの報告や聞き取り等により成果を把握し、KPIの達成度等を検証する。検証結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに亙理町HPで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】
- 総事業費 25,820千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

「亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」において、設定した数値目標等から、実施した施策・事業の効果を検証し、新たな展開を模索し、より効果的な事業となるよう見直しを行う。

【外部組織の参画者】

宮城大学食産業学部環境システム学科教授、株式会社カドサワ代表取締役社長、モリプレゼンス株式会社専務取締役、みやぎ亶理農業協同組合総務課長、亶理町教育委員会教育委員、七十七銀行亶理支店支店長、あぶくま信用金庫亶理支店支店長の外部有識者で構成する亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会や亶理町議会の関与を得ながら、事業実施団体等からの報告や聞き取り等により成果を把握し、KPIの達成度等を検証する。検証結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
水産まつり及びはらこめし提供店の来客者数(人)	18,000	500	500	500	1,500
水産まつりのはらこめし販	1,300	150	150	150	450

売個数					
主要店舗（5 店舗）による 提供食数	56,000	500	500	500	1,500

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法
 検証後、速やかに亙理町 HP で公表する。